



計画において示された移転候補地  
(中田原工業団地内)

## スロータウン構想について

**質問 (森泰久議員)** 地域資源、天然資源の存続、再生に重点を置くスロータウンのようなまちづくり導入について伺います。

**答弁 (市長)** スロータウンとは、ゆっくりと時間をかけて物事を追及し、地域資源の保存・再生に重点を置く「スロー社会」の発想にたってまちづくりを進める地方自治体と定義されています。具体的には地域資源、天然資源を見つめ直し、保存、再生、循環活

動として自然環境の保全、伝統文化の保存継承、地産地消の推進、自然エネルギーの再生、郷土愛の育成などに取り組むことをまちづくりの指針としています。現在全国組織として、スロータウンの趣旨に賛同する地方自治体が集まり「スロータウン連盟」を組織しスローなまちづくりを進めています。

本市は緑豊かな山々、清らかな川の流れ、心に潤いを与える自然環境を今日まで保持

## 大田原赤十字病院移転計画の進捗状況について

**質問 (深澤賢市議員)** 大田原赤十字病院移転整備により高度な救急医療体制が整備され、安心して暮らせるよう市民は望んでいますが、その進捗状況について伺います。

**答弁 (市長)** 大田原赤十字病院は昭和二十四年に現在地に開設して以来五十七年が経過し、近年建物及び設備面で老朽化が進み、救命救急センター等の機能は、県内他の四カ所の救命救急センターなどと比較し、十分な機能を有しているとは言い難い現状にあり、

県北の住民にとつては、精神的かつ経済的に大きな負担を強いられています。本市においては、公的病院としての医療体制の充実と機能強化のための移転計画の早期実現を指し、日本赤十字社本社に対する要望活動なども展開してきたところ、昨年七月二十四日に中田原工業団地内を移転先とする新大田原赤十字病院の移転新築計画基本構想案が公表されました。計画案では、建物は三階の低層部と十階の高層部で構成され、屋上へ

リポートを有する鉄筋十階建て免震構造であります。病床数は、現在の五百十六床から四百六十床と減少されますが、一床当たりの面積は七十平方メートルとなり三十平方メートル増加し、駐車場も八百台前後のスペースを確保する計画となっております。工期は、平成二十二年度に着工し、平成二十四年度の春の竣工を指しており、総事業費は百五十億円から百六十億円を見込んでいるとのことあります。

することができました。八溝朝霧手刈りそばの生産、サケの稚魚放流など自然保護と地域の活性化を結びつけた住民活動が盛んに行われています。また、人と人との絆を大切に、祭りや伝統文化の継承、地域福祉の充実も図られています。これまでずっと守り続けてきた美しいまち、和やかな家庭、穏やかな人々の生活が急速に変わることなく、誰もが安心して暮らせるまちづくりを住民と行政との協働によりこれからも目指していきたいと思えます。



毎年行われている八溝朝霧手刈りそば試食会